

根本史料として

■三卿伝編纂所は、元就・元春・隆景三卿の史実に基づく厳正な伝記の編纂を目的として、毛利・吉川・小早川の三家によって大正十年に創設されている。

■本書は、戦国時代史の最高権威・渡辺世祐氏の厳密な監修により、三卿伝編纂所の膨大な記録・古文書類を駆使して、この戦国期最大の軍政治家の多彩な経歴や、深い人間性を浮き彫りにした、唯一無二の「小早川隆景伝」である。

■数々の史料は読みやすい現代文に訳されたうえ、渾然一体と本文に埋め込まれ、片言隻句に至るまで出典を明示してある。本書は完璧な伝記であると同時に、『毛利元就卿伝』と並んで、戦国期中国地方史の解明に不可欠の根本史料集ともいえよう。

■本書初版は昭和十四年に東京の三教書院からごく小部数刊行され、幻の名著として知られていた。昭和五十五年、小社ではB6判の初版本をA5判に拡大して復刻したが、直ちに売り切れ、入手困難となっていた。今回は「特装版」として再復刻するものである。

小早川隆景 目次

- 第一章 安藝における小早川氏の地位
 - 第二章 隆景の小早川氏相續
 - 第三章 毛利元就の部將としての隆景
 - 第四章 山陽道の経略
 - 第五章 織田信長との抗争
 - 第六章 四國経略の功績
 - 第七章 豊臣秀吉との交歡
 - 第八章 九州役とその活動
 - 第九章 小田原陣とその劃策
 - 第十章 文祿役とその功績
 - 第十一章 その晩年と薨去
 - 第十二章 豊臣氏の宿將としての地位
 - 第十三章 毛利氏擁護とその地位
 - 第十四章 その修養
 - 第十五章 その一族
 - 第十六章 その人物と遺蹟
- あとがき 吉村宮男

智将隆景、唯一の伝記

限定五百部復刻

小早川隆景

渡辺世祐・川上多助著

マツノ書店

月山城

■体裁 A5版 二八六頁
上製箱入

■定価 七千円

■予約特価 六千円
(いずれも送料・消費税込)

■予約締切 九年三月二十日

■発売 九年四月下旬

特装版 限定五百部

〒745徳山市銀座2
マツノ書店
083-2295

▼僅少数につき、品切れの際はご容赦願います。
▼書店には卸しません。

輝弘の山口侵入は直に長府の本營に報せられ、元就は使を立花城に遣はしてこれを元春・隆景に傳へ、その陣を撤して長府に來り會すべきことを命じた。併し隆景等は、立花陣の形勢容易にその退陣を許さないののでこれを躊躇してゐたが、再び元就の嚴命に接して退陣するに決し、大友氏の追撃に備ふるため、乃美宗勝・坂元祐・桂元重を立花城に留めて嬰守せしめた。また隆景は粟屋元辰を蘆屋・若松に遣はして渡航の準備を爲さしめたが、元辰はその地の宿老を會してこれを人質とし、實を告げて毛利氏のために奔走して渡船を集めしめ、數百艘を得、隆景等の立花より退陣するを待つやうにした。毛利家日記 かくて十月十五日の夜、雪降り風烈しき折柄、毛利氏の軍は順次退城したが、大友軍の進撃を退けつゝ蘆屋に著き、元辰の豫め備へて置いた數百艘の船に分乗して海路長府に歸つた。ついで十月二十日、元春は福原貞俊と共に、長府を發して山口に向つたが、隆景は長府にあつて元就の帷幄に參劃した。吉川文書、関関録

毛利氏の兵漸く山口に集結するに従ひ、輝弘の兵は急に士氣沮喪し、逃亡者相次いだから、輝弘は元春・貞俊の軍を邀へて戦ふことを避け、八百餘の兵を率ゐて山口を出で秋穂に走り、海路豊後に遁れ還らむとしたが、乗船を得ることができなかつた。元春はこれを追うて、二十五日秋穂に至り、山口から追撃して來た兵を併せて、輝弘を浮野峠に破つた。輝弘は東に遁れ防府を経てとみ富海に奔らむとしたが、椿ヶ峠に於てその退路を絶たれ、進退谷まり、浮野峠の中途、茶磨山に於て自殺した。

問関録 輝弘の山口襲撃は僅に二週間許りで解散したが、これによつて毛利氏は筑前の軍を撤退するに至つた。要するに輝弘は義鎮の毛利軍を牽制する策動の犠牲となつたものである。こゝに於て元就は長府から吉田に還ることになつたが、隆景は元就に隨ひ、二十八日長府を發し嚴島に至り、嚴島神社に參拜し、滞在五日にして沼田に還つた。房顯覺書

隆景等の軍が撤退した後には、大友氏の勢力再び筑前を風靡し、高橋鑑種を寶滿